

2014年1月吉日

自治体健康政策担当者向け COPD 講習会開催のご案内

昨年4月1日より改正健康増進法が適用されました。自治体の健康政策担当者さまは、「健康日本 21（第二次）」の目標として新たに追加された「COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度向上」を達成するため、COPD 啓発活動の計画をご検討しておられることと思います。また、COPD の原因の90%以上は喫煙であり、各自治体におけるたばこ対策を促進するうえでも重要なファクターでもあります。

そこで一般社団法人 GOLD 日本委員会では、自治体の健康政策担当者を対象に、COPD 講習会を実施いたします。COPD についての呼吸器専門医の講義、過去に種々の啓発活動を行ってきた自治体の活動例の紹介、および COPD 診断の基本であるスパイロメトリーの体験実習を組み合わせた半日の講習会です。

COPD に対する理解を深め、日頃の疑問を解消いただく機会として、また自治体での COPD 啓発活動の計画および実施の参考にしていただくため、ぜひともご参加くださいますようお願い申し上げます。

一般社団法人 GOLD 日本委員会
代表理事 福地義之助

COPD（慢性閉塞性肺疾患）とは：

喫煙等の刺激による肺の慢性的な炎症反応を基本病態とする呼吸器の病気。日本では2012年に約1万6千人が COPD で死亡し、日本人男性の死亡原因の第8位を占めている。体を動かしたときの息切れや増悪を繰り返すことで日常生活が著しく障害される。早期発見し、重症化を防ぐ治療を早期に開始することが重要であるが、潜在患者約500万人に対し、治療を受けている患者は2011年で約22万人である。

「健康日本 21（第二次）」では、平成34年度までに COPD の認知度を80%以上にするという目標が掲げられた。

一般社団法人 GOLD 日本委員会 (<http://gold-jac.jp/>) とは：

慢性閉塞性肺疾患（COPD）に関する正しい知識の普及を通じて国民の健康増進に寄与することを目的とし、2012年10月に設立された。呼吸器専門医が中心になり、以前より任意団体として実施してきた COPD 啓発活動の実績を活かし、自治体等が実施する COPD 啓発活動の支援等に取り組んでいる。